

川崎北部でコシアカスカシバの産卵行動を観察

雛倉正人*

Oviposition behavior of a bark borer moth, *Scasiba scribai* (Bartel, 1912)
observed in northern Kawasaki

Masato Hinakura*

はじめに

コシアカスカシバ *Scasiba scribai* (Bartel, 1912) は、幼虫時代に樹皮下に穿孔して生育するスカシバガ科蛾類で、シラカシ *Quercus myrsinifolia* Blume、クヌギ *Q. acutissima* Carruth.などのブナ科を主に宿主植物とする。成虫は晩夏から初秋にかけて見られ、名古屋市では神社境内のシラカシで多数発生した事例がある (有田・池田, 2000)。川崎市では、2014年に生田緑地で青少年科学館職員によってクヌギ幹上から採集されており、これが神奈川県内2例目・市内75年ぶりの記録とされている (川島・永井, 2016)。筆者は、麻生区の緑地で本種の産卵行動を撮影したので、記録しておきたい。

撮影記録

1♀, 麻生区万福寺 (万福寺さとやま公園), 14. IX. 2025, 雛倉正人撮影

薄日の正午過ぎ、コナラ *Q. serrata* Murray 生木幹の皺のある部分 (高さ1m前後) に飛来し、10分前後の間、飛翔しながら同じ木の周囲にとどまっていた。時折樹皮に止まり腹部を曲げ産卵行動をとり (図1)、一度だけ根際の地表でも同様の行動を示した (図2)。隣の緑地 (万福寺ふるさと緑地・川崎市アートセンターの裏山) では、この前日 (雨あがりの類似時間帯) にコナラに飛来した本種を一瞬観察しているが、撮影できなかった。飛翔時の姿はキイロスズメバチ *Vespa simillima* Smith と紛らわしい。

おわりに

観察したコナラは、ナラ枯れが終息した斜面緑地において、生き残った古木である。幹の片方は切り株となり、サクラ類の根がまわりついた木である。

微小な卵の色や形に無知で未確認であったこと、撮影後の標本確保を試み振り逃がしたことは、残念である。

スカシバガの仲間は羽化後蛹殻を残すので、これによっても生息を知ることができる。本種が近年増えているものなのかは、今後の観察を待たねばならない。翌年成虫が羽化するか、確かめてみたいものである。また、他の緑地での確認や、羽化・産卵時の天候・時間帯については、残された課題としたい。



図1. 幹に産卵するコシアカスカシバ



図2. 根際地面に産卵するコシアカスカシバ

謝辞

本稿をまとめるにあたり、特定非営利活動法人かわさき自然調査団の横田光邦氏には原稿を見ていただきご助言を賜った、ここに感謝する。

*特定非営利活動法人 かわさき自然調査団

Kawasaki Organization for Nature Research and Conservation

引用文献

有田 豊・池田真澄, 2000. 月刊むし・ブックス 3 擬態する蛾 スカシバガ. 204pp., むし社 東京.

川島逸郎・永井一雄, 2016. 生田緑地からのコシアカスカシバの追加記録. 川崎市自然環境調査報告 VIII: 139, 川崎市教育委員会・特定非営利活動法人かわさき自然調査団.